



桃五だより



No.627

(9月号)

2023.9.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

これからの移動教室や学校行事のあり方を考える

校長 佐野 篤

今年度はアフターコロナの元年として、学校行事等を全てコロナ前に戻すのではなく、コロナで得た知見を活かして、継続するものは継続し、さらに変える必要のあるものは変えていく方針です。また、4月から、子どもの権利条約の精神に基づく「こども基本法」が施行されました。学校こそが、「こどもまんなか社会」を目指し、子供たちが主体となって創る移動教室や学校行事にしたいと思っています。

さて、移動教室(5年生:山中湖、6年生:弓ヶ浜)は、卒業文集に5割近くの子供が題材に選ぶほど、子供たちの心に残る学校行事です。だからこそ、移動教室については、「子供が学び、成長する移動教室」に変えていかなければならないと感じています。

これまでの移動教室は、ある意味では「決められた行程を、子供に失敗させないように指示をたくさん出し、徹底させる移動教室、時間に追われる移動教室」でした。その中でも、子供たちの心に残る移動教室だったので、全てがよくなかったと言うつもりはありません。しかし、これからは、さらに子供たちが考えて行動できるように①指示をしすぎない。②ゆとりをもった行程にする。③役割と責任を与える。④振り返りから学び、子供自身が考え行動する。⑤人を大切にしたい行動をする等のようにしていきたいと考えています。

7月に行われた5年生の山中湖移動教室での一例です。これまではバスガイドさんが富士の歴史等の観光案内をしてくださっていたのですが、今回はガイドなしの車掌としての同乗でした。そこで、事前に各自が調べたこと(富士の歴史、忍野八海、ほうとうについて等)を、バスのマイクを片手に発表しました。子供たちがガイドになることで、学んだことをアウトプットし、より理解が深まり成長することができました。

さて、学校行事のあり方についても、同様のことが言えます。コロナ前まで長年実施してきた運動会、学芸会、音楽会、展覧会等についても、大きな変革が求められていると感じています。一カ所に長時間、大人数が集まって、結果を競う学校行事からの変革です。改革の視点は2つです。

①授業の延長線上にある学校行事にしていくこと(これまでは、完成度を求めて授業を変更してまで取り組んできたことがありますが、子供たちが授業で学んできたことを発表する行事にする。)②子供が主体となって創る学校行事にしていくこと(教員が決めたことを子供にさせる行事から、子供が主体となって考え、創り上げていく行事にする。)

みんなのしあわせを創る学校行事とは、子供の目線を大切にしたい教育活動であると考えます。先生が決めたことをやる学校行事から、子供一人一人に役割と責任を与え、子供が主体となって創る学校行事を目指していきたいと思えます。ご理解、ご協力をお願いいたします。

9月の生活指導目標 もも五の子どものやくそくを守ろう

2学期が始まり、桃五小に子供たちの元気な声とともに、学校の規則正しい生活が戻ってきました。夏の疲れが出てきたり、生活リズムが乱れたりして体調を崩しやすくなる時期です。夏に培った力を発揮し、充実した学校生活を送るために、早寝早起きを心がけ、時間や時刻を守って生活していきましょう。